

おかえり

せんす

何もない空間にピアノが一つ

役者が登場する

「今日、ここへお越しくださった皆さん。少し思い出してください。最後に開いたのは何ですか。」

「カバン。」「なるほど。」

「手帳。」「なるほど。」

「財布。」「ありがとうございます。」

「ドア。」「ドア・・・扉ですね。」

「今朝、自宅の扉を開けたと思います。昨夜、扉を閉めたことでしょう。そして今日、こうやって扉を開いてここに来てくれました。ありがとうございます。」

「人生にはたくさん扉があります。それは用意されている暖かいものから、ある日突然飛び出してくるびっくり箱のようなものも。開けたくても開けられない扉に苛立ったり、扉自体が見つからなくて焦ったり。みなさんにもそんな経験は、ありませんか。」

「そんな扉を今日はいくつかご紹介したいと思います。」

「全ての始まりは全ての終わり。全ての終わりが始まればまた、あなたに会いたくなる。」

「これは、ある小さな女の子の物語です。」

「きっとみなさんも、こんな女の子に会ったことがあると思いますよ。」

詩の中で演奏者が登場する

「希望の扉」

「いくつもある扉の中で、自分が一番好きな扉を開けよう。そこにはいつでもチャンスと希望が待っているはずだ。」
「どの扉を開けるかはじぶん次第。私のかみさまに出会う道！」

NI やさしさに包まれたなら（フル）

小さい頃は かみさまがいて

不思議に夢を 叶えてくれた

優しい気持ちで 目覚めた朝は

大人になっても 奇跡は起こるよ

カーテンを開いて 静かな木漏れ日の

優しさに 包まれたなら きっと

眼に映る すべてのことは メッセージ

小さい頃は かみさまがいて

毎日愛を 届けてくれた

心の奥に しまい忘れた

大切な紐を 開くときは今

雨上がりの庭で クチナシの香りの

優しさに 包まれたなら きっと

眼に映る すべてのことは メッセージ

カーテンを開いて 静かな木漏れ日の

優しさに包まれたなら きっと

眼に映る すべてのことは メッセージ

「メッセージを聴いた私にはもう迷いがない。カーテンの向こうには虹が広がり、手招きされた私は一直線にここから駆け出す！」

「次々と開けよう、自分の扉を。」

㊦2 生まれてはじめて（一部）

このときを 夢見てた

そう生まれて初めて 音楽に乗り

生まれて初めて 踊り明かすの

ああ 嬉しすぎて私

舞い上がりそう

もう一人じゃないの 夢のよう

「暗い朝も、迎えの来ない夜も、どんな日も私は一人で我慢してきた。これからはそうじゃない。私には音楽がある。」

「女の子はいつも一人を感じていました。『自分は一人だ。誰も迎えに来てくれない。』本当はそんなこと、ないのにね。」

㊦3 久石譲？

「女の子は音通して歌う喜びを知り、身体は自然にリズムを刻み出しました。目の前にはたくさんの扉とたくさんの可能性が広がり、女の子は夢中になることを覚ええました。」

「歌って踊る表現がしたい！私、舞台女優になる！」

「私が決めたことなの！幾つだって扉を開いてみせる！！」

「どれだけ息が切れたって、私は走り続ける！！」

「憧れの扉」

㊦4 ダンシングクイーン（一部）

さあさダンス 踊っちゃおう

スイング楽しもうよ

見てよこの子 気分は 今やダンシングクイーン

「好きな気持ちだけは誰にも負けない！」

「女の子は言いました。」

「だけど、好きな気持ちだけでは扉は開きません。」

㊦5 ダンス10ルックス3（フル）*カホンあり

ダンス10ルックス3

今度もまた落ちた

一みみて良くなきゃ 全然バツなの

ダンス10ルックス3

死ねというの

覚悟決めて飛び込んだわ 整形外科へ

おっばいとお尻持ち上げて

あちこちついでに

お眼目ばっちり鼻も高く

ポインとプリンすごいわこの威力

あっという間に合格よ

ポインとプリン嫌なら 失業よ

高くても元が取れる

「性生活にも支障なし」

ガリンでペチャパイ

モテるわけないじゃないの

出てるそこ出てなきや

ツルンツルン滑りっぱなし

綺麗なお尻で 人生変わるの

みんな見てる みんな待ってる 私のこと

「なぜ？」

ぺちゃんたらん

アパートで一人 寂しい娘が たちまちにいい女

わぁ！すごい！シリコン注射とマスカラで出来上がり！

ポインとプリン

人生 大正解

今すぐタクシーに乗り

会いに行け 魔法使いの アドレスはここよ

さあ

ポインとプリン お客さんたちも裏方たちも

みんな痺れて感じている

ポインとプリン

これさえあれば世界はバラ色よ

ボインとプリン

そうボインとプリン！

大正解！！

「女の子は一人の女性となり、来る日も来る日もオーディションに向かいます。結果は思わしくないものばかり。簡単にもらえる仕事ではありません。」

「音と共に歩んで来たのに。徐々に私の希望は焦りに変わっていく。どうして上手くいかないんだろう。どうしてこんな風になっちゃったんだろう。結局私の開いた扉は間違っていたのかな。いつもたくさんあったはずの扉が、どこを探しても見つからない。もう門はくぐってしまった。私は歩き続けるしかない。」

「開かない扉」

M6

6

M7 ALL THAT JAZZ (ピアノ、カホンのみ)

「来る日も来る日も歌、ダンス、歌、歌、ダンス。それは血のにじむような日々でした。それでも良い知らせは訪れない。アルバイトをしながら、小さな役をもらって小銭を稼ぐ日々。彼女には意地がありました。『自分で開いた扉だもの。』『一人でやって来たんだから！』、一人な訳、ないのね。」

「閉まっていく扉」

M8 愛した日々に悔いはない (一部)

悔やまない 選んだ道がどんなに辛く

この日々が報われず 過ぎ去ろうと

泣かないわ 好きだからこそ 命燃やした

この日々に口づけして 別れよう

ああこの愛を 胸に抱き 別れつげよう

ためらわず 思いのままに すべてをすてて

生きた日々に 悔いはない

この道を ひたすら

ああこの思い 胸に抱き 明日を生きよう

悔やまない 好きだからこそ 命燃やし

すべてをすてて 生きた日々に 悔いはない

ひたすらに この道を

「不合格。」

「扉が閉ざされた日、それでも、どうしても私は振り返られない、自分の後ろを。この道をひたすらに。どうしても開かないのなら、思い出に浸るしかない。」

「もしも、もう一度歌えるなら・・・だって、音楽は。」

M9 輝く未来

いつも憧れてた ひとり塔の中で

外の世界はどんなに素敵か

今夜は夜空の下 霧が晴れたように

やっと見つけた 私がいる場所

輝いている 未来照らす光

夢を叶えた 特別な夜

世界がまるで昨日とは違う

ようやく巡り会えた 大事な人

「ようやく巡り会えた外の世界だったから。」

「これは私の人生。今燃えているのは私の命。だから私は私の道に行く。どの扉を開くかはじぶん次第。かみさまは、私の中にいる！」

「誰か、の存在に彼女はまだ気がついていませんでした。」

「次の扉を開いた彼女には一つの出会いが待っていました。」

「出会いの扉」

№10 恋のツボミ（一部）

めちやくちや好きやつちゅうねん

月曜日も火曜日も

誰にもまけへんのに

心の叫びいつ伝えればいいの

目が合うだけで

ドキドキに勝てない

「彼女は初めて恋を知りました。毎日が急速に輝き出しました。」

「しかし、そんな平穏な日々も長くは続きません。」

「扉は突然閉ざされます。」

「別れの扉」

№11 わかれうた（一部）

みちに倒れて誰かの名を 呼び続けたことはありませんか

人ごとに言うほどたそがれは
優しいひとよしじゃありません

M12 で、ミゼラブル（フル？）

「恋愛・結婚・そして離婚。」

「いつでも、どんな時でも、私は私の扉を開ける。次の扉を開けるのも私自身！」

「だけどとっくに彼女の心は折れていました。」

「その時、誰かの声が聞こえました。」

SE1

「だれ？」

「少し、休んだら？」

「明日もあるよ。」

「元気出して。」

「結果が全てじゃないよ。」

「大丈夫。」

「うるさい。」

「信じるものは自分自身。」

「聞こえる声は自分の声だけ。」

「だって私は、ここまで自分だけの力で歩いてきた。」

Σ13 夜空ノムコウ（一番のみ）

あれから僕たちは 何かを信じてこれたかなあ
夜空の向こうには明日がもう待っている

誰かの声に気づき 僕らは身をひそめた

公園のフェンス越しに夜の風が吹いた

君が何か伝えようと

握り返したその手は

僕の心のやらかい場所を

今でもまだ締め付ける

あれから僕たちは何かを信じてこれたかなあ

窓をそっと開けてみる 冬の風の匂いがした

悲しみっていつかは 消えてしまうものかなあ

ため息は少しだけ 白く残ってすぐ消えた

「すぐに消える幻。人との関係なんかそんなものだ。」

「信じられるのは自分だけ。」

「だけでもう、歩けない。」

「誰かが私の肩を叩いた。」

「そっと私のほっぺに触れた。」

「誰かのほっぺが私のほっぺに触れた。」

「誰かの涙が私のほっぺに伝わった。」

「そうだね。あんたはずっと、一人で歩いてきたね。」

「ごめんね、寂しい思いをさせて。」

「ごめんね、一人にして。」

「ごめんね、迎えにいけなくて。」

「早く言えばよかったね・・・。」

「・・・。」

「お話、覚えてる？」

「誰かさんの糸とね、私の糸がね、ある日繋がったの。」

≡ 14 糸

なぜ巡り合うのかを 私たちは何も知らない

いつめぐり逢うのかを 私たちはいつも知らない

どこにいたの 生きてきたの

遠い空の下 二つの物語

縦の糸はあなた 横の糸は私織りなす布はいつか誰かを暖めうるかもしれない

「ううん。それだけじゃない。」

「私だって、誰かさんの糸と誰かさんの糸が繋がって生まれてきたの。」

「誰かさんの糸・・・。」

なぜ生きていくのかを迷った日の後のささくれ

夢追いかけて走って転んだ日の後のささくれ

こんな糸がなんになるの

心もとなくて 震えてた風の中

縦の糸はあなた 横の糸は私 織りなす布はいつか誰かの傷をかばうかもしれない

「遠い宇宙からあなたまで、糸はずっと続いている。」

「遠い宇宙から私まで、糸はずっと続いている。」

縦の糸はあなた横の糸は私

逢うべき人に出逢えることを

人は仕合わせと呼びます

「早く言えばよかったね。」

「私は、誰よりもあなたのことを、愛している。」

M15 久石譲?

「・・・お母さん。」

「覚えている。」

「私の中で燃えている命は私一人の命じゃない。」

「ずっと前のお話。私は覚えている。私の中で蘇ったこのお話。」

「私の命は私だけのものじゃない。ずっとずっと昔に聞いたはなし。そうあなたに聞いたあの話。命が命を紡いできた。」

この世界を理解したい

でも多くの不思議が

サファイア色の 空の中で

太陽は永遠の時と 生命を生み出す

命はめぐる 望みと愛と苦しみ超えて

生きていく 道しるべ 命はめぐる

イツアサークルオブライフ

「命はめぐる。」

「私の命を紡いでくれた人。」

「扉を開けると、私の背中には必ずもう一人の手があった。」

「私が一人でもまっすぐに歩けるように、いつも支えてくれた。」

「私のほっぺには、母の涙が伝わっていた。」

「自分のことはいつも後回しにして、大事なことを教えてくれた。」

「ありがとう。」

「それから、ごめんね。」

「私はいつも一人で歩いているつもりだった。全部一人で決めて、全部一人でやってきたつもりだった。でもね、私には帰れる場所があったから、だからこうやって歩いてこれたんだ。」

「どうしても気がつかないなら、私に生まれてこなかった。」

「あなたがいなかったら、私は生まれてこなかった。」

「あなたがいなかったら、私は今、ここにいない。」

「あなたがいてくれたから、私は生まれてきた。」

「あなたがいてくれたから、私はここにいる。」

「私が私でいるために、あなたはたくさん傷ついて、たくさん我慢して、いっぱい無理して、力いっぱい守ってくれたね。」

「私が私で入られたのは、間違いなく、あなたのおかげです。」

「お母さん、覚えてる。」

「扉を開けると、いつもこう言ってくれたよね。」

「もう一回、その声が聴きたいなあ。」

Σ17 おかえり

物語は終わりを迎える

発行元 せんすおぶわんだあ

発行日 2017年9月17日

ご利用について

作品の上演などについては、WEBサイトのコンタクトよりお問い合わせください。

著作権は せんすおぶわんだあ に帰属します。

*本書の内容は予告なしに改訂となる場合があります。

WEB サイト せんすおぶわんだあ

<https://www.sens-of-wonder.com>

Twitter

@Sens_of_wonder